

第2期 総合戦略策定のための  
アンケート調査  
結果報告書  
〈概要版〉

令和元年 8月  
吉野川市

## 目次

<b>I</b>	<b>調査概要</b> .....	<b>1</b>
1	調査目的.....	1
2	調査設計.....	1
3	報告書の見方.....	1
<b>II</b>	<b>調査結果の概要</b> .....	<b>2</b>
1	結婚・出産・子育てについて.....	2
2	移住・定住について.....	5
3	地域連携について.....	7
4	進路や就職について.....	8
5	吉野川市に対する気持ちについて.....	11
6	仕事に対する気持ちについて.....	12

# I 調査概要

## 1 調査目的

本調査は、平成 28 年 2 月に策定した「吉野川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」が期間終了となることに伴い、市民の結婚・出産・子育ての希望、定住に関する希望、また、地元就職率の動向や進路希望に関する意向などのニーズを把握し、第 2 期総合戦略策定の基礎資料とするため実施しました。

## 2 調査設計

### 【16～39 歳対象調査】

- (1) 調査対象 吉野川市在住の 16～39 歳の方（無作為抽出）
- (2) 実施期間 令和元年 6 月 10 日～6 月 24 日
- (3) 調査方法 郵送による配布・回収
- (4) 配布・回収状況

配布数	回収数	有効票数	有効回答率
3,000	745	740	24.7%

### 【高校生対象調査】

- (1) 調査対象 吉野川市在住の高校生（川島、吉野川高の 2 年生、3 年生）
- (2) 実施期間 令和元年 6 月 17 日～6 月 21 日
- (3) 調査方法 学校において直接配布、回収
- (4) 配布・回収状況

配布数	回収数	有効票数	有効回答率
260	248	248	95.4%

## 3 報告書の見方

- (1) 基数となるべき実数は、(n=〇〇) と表示する。各比率はすべてを 100%として百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出している。そのために、百分率の合計が 100%にならないことがある。
- (2) 質問文の中に、複数回答が可能な質問があるが、その場合、回答の合計は回答者数を上回ることがある。
- (3) 図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合がある。また、0.0%の表記は省略している場合がある。

## II 調査結果の概要

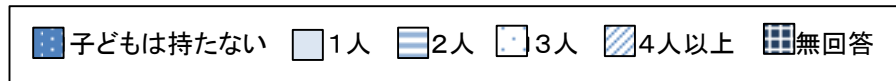
### 1 結婚・出産・子育てについて

#### 【16～39歳対象調査】

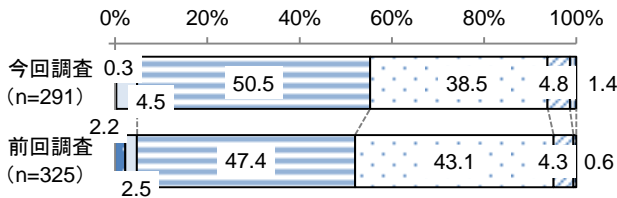
#### 設問対象＜結婚している方＞

結婚している方の理想の子どもの人数と最終的に持つつもりの子どもの人数をみると、理想の子どもの人数では「3人」が38.5%であるのに対し、最終的に持つつもり的人数では29.6%となっています。

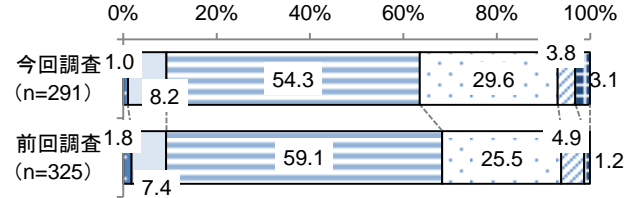
その理由をみると、前回と同様に「子育てや教育にお金がかかるから」が最も多くなっています。



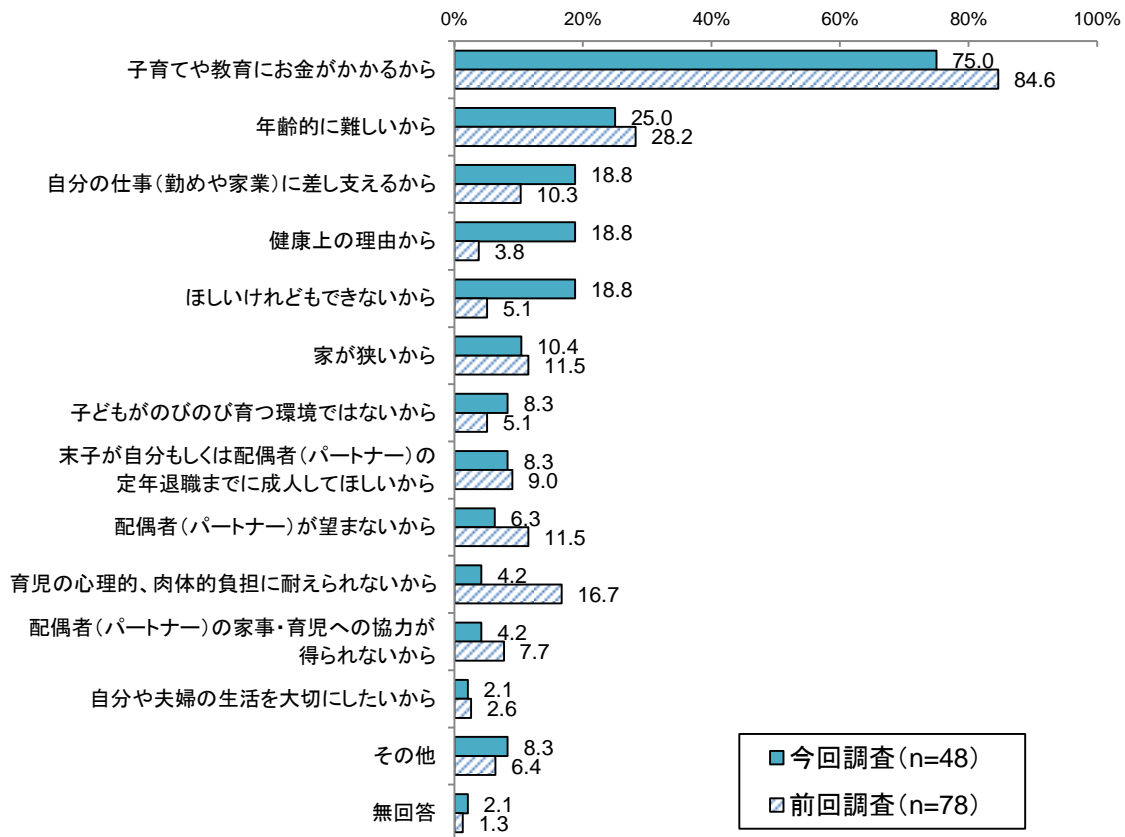
#### ■理想の子どもの人数



#### ■最終的に持つ予定の子どもの人数



#### ■持つつもりの子どもの人数が理想より少ない理由

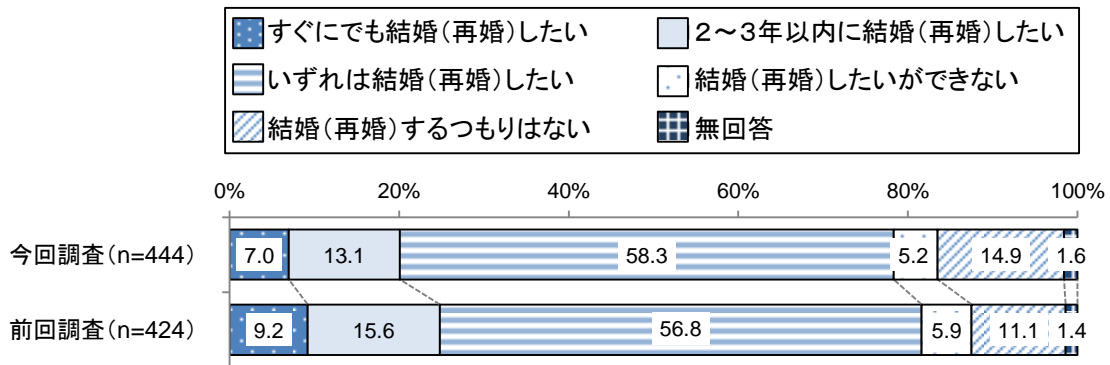


### 設問対象<結婚していない方>

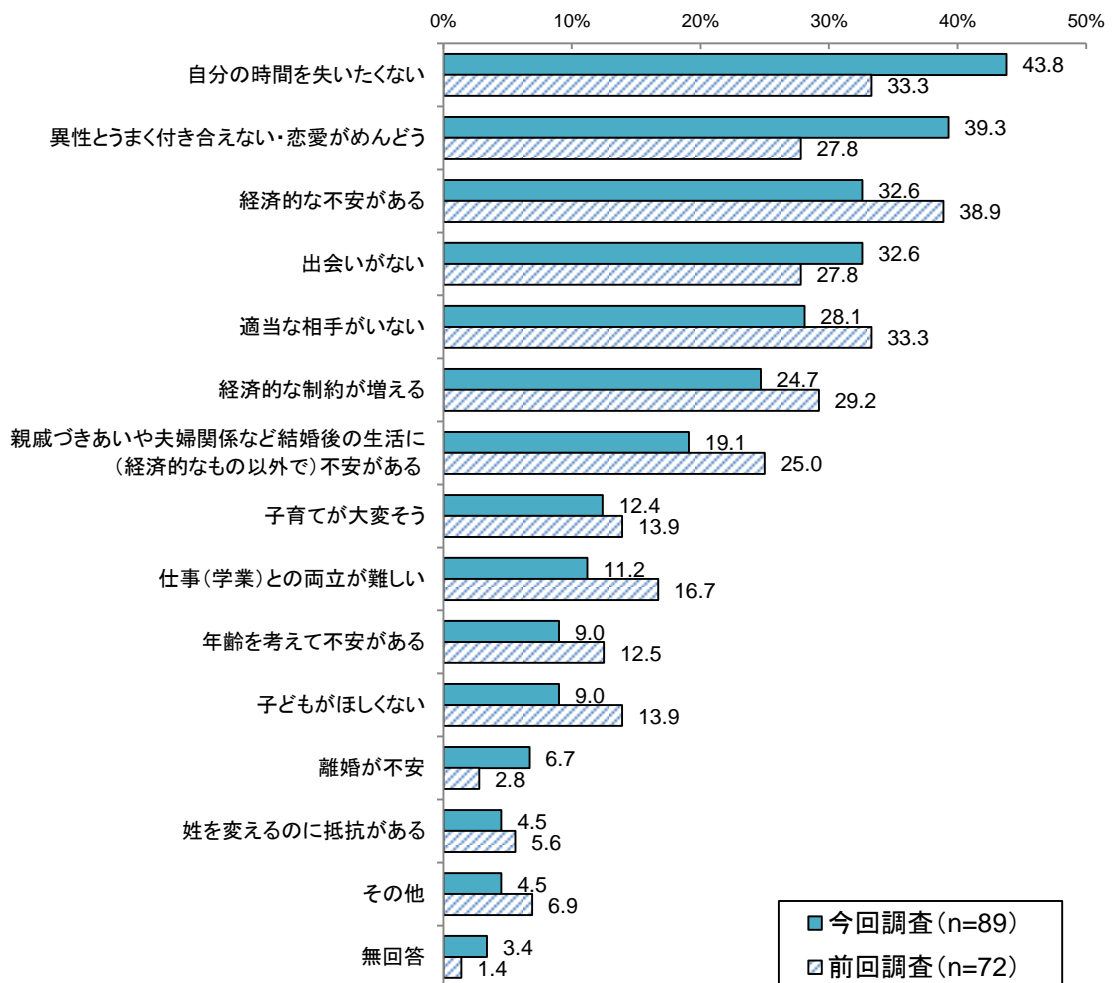
結婚していない方の結婚（再婚）願望の有無をみると、「いずれは結婚（再婚）したい」が前回と同様に最も高くなっていますが、「結婚（再婚）するつもりはない」と回答した方が増加しています。

結婚（再婚）するつもりはない理由をみると、「自分の時間を失いたくない」が43.8%と最も多く、次いで「異性とうまく付き合えない・恋愛がめんどう」が39.3%となっています。

### ■結婚(再婚)願望の有無



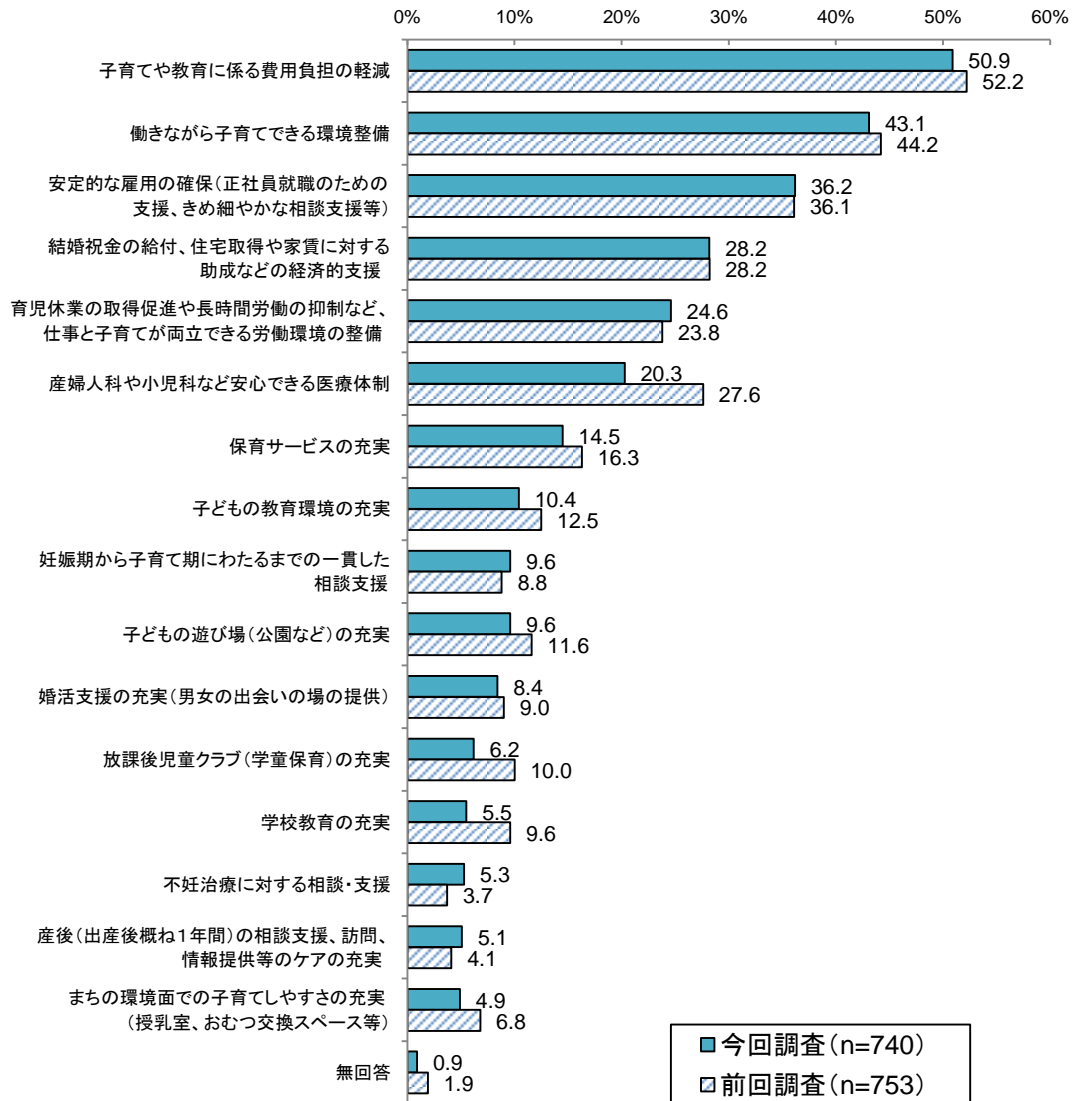
### ■結婚(再婚)するつもりはない理由



## 設問対象<全員>

結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、必要な(だった)支援・対策をみると、前回と同様に「子育てや教育に係る費用負担の軽減」が最も多くなっています。

### ■結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、必要な(だった)支援・対策



### 結婚・出産・子育てについての総括

結婚している方が、本当に持ちたいと思っている人数の子どもを持たない(持てない)理由として、前回同様に経済的要因が深く関わっており、その支援が望まれています。

また、結婚していない方が、結婚を考えない理由として、自分の時間を失いたくない、恋愛がめんどろといった意見が多く挙げられており、前回調査時に最も多く挙げられていた経済的な不安を上回る結果となっています。

今後、市において、出生率を向上させ、人口減少の抑制を図るためには、引き続き子育てに関する経済的支援や就労環境の整備、雇用の確保などに努めることに加え、若年層の人付き合いに対する意識の改革を促す機会や場所を、積極的に設けていく必要があります。

## 2 移住・定住について

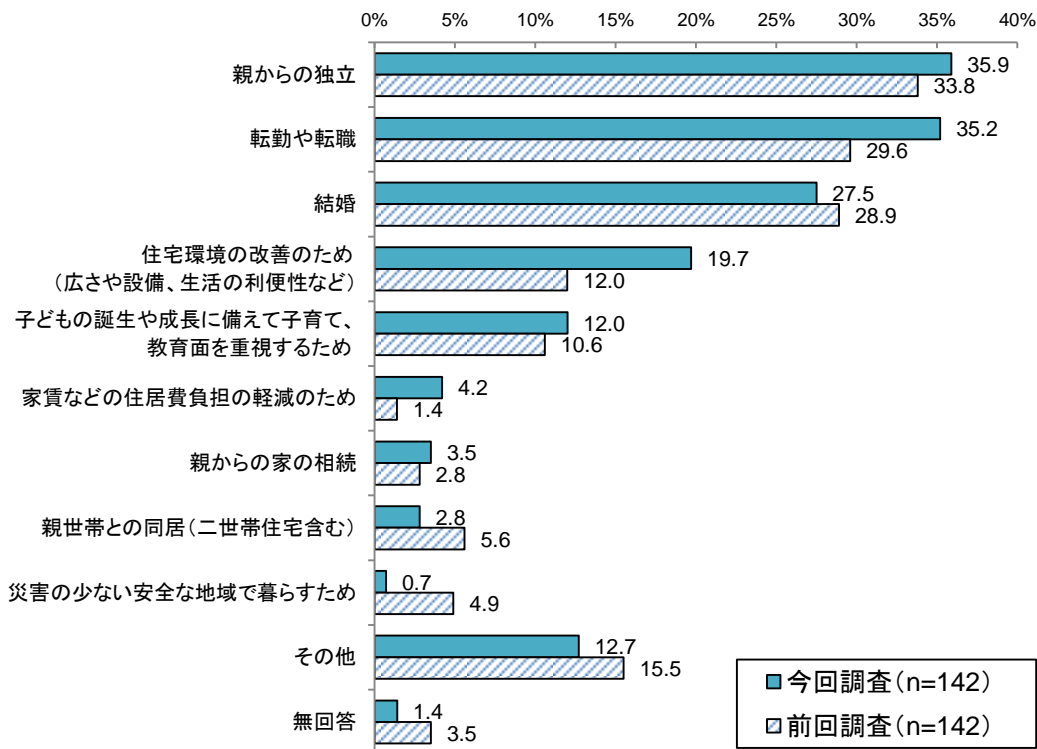
### 【16～39 歳対象調査】

#### 設問対象＜将来、市から転出を考えている方＞

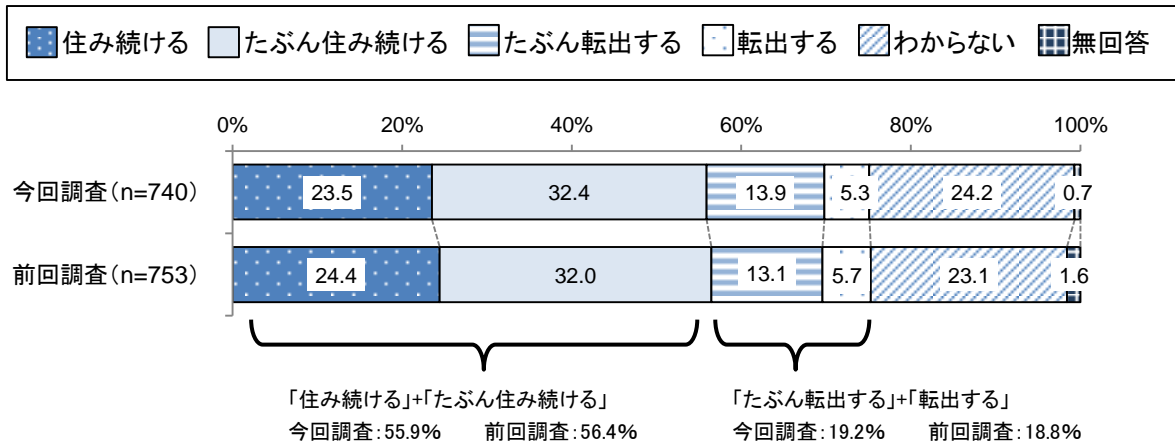
転出を考えている方の転出のきっかけをみると、前回と同様に「親からの独立」「転勤や転職」「結婚」が多くなっています。

また、転出をする際に最も重視することは「交通・通勤の利便性のよさ」となっており、前回と同様の結果となっています。

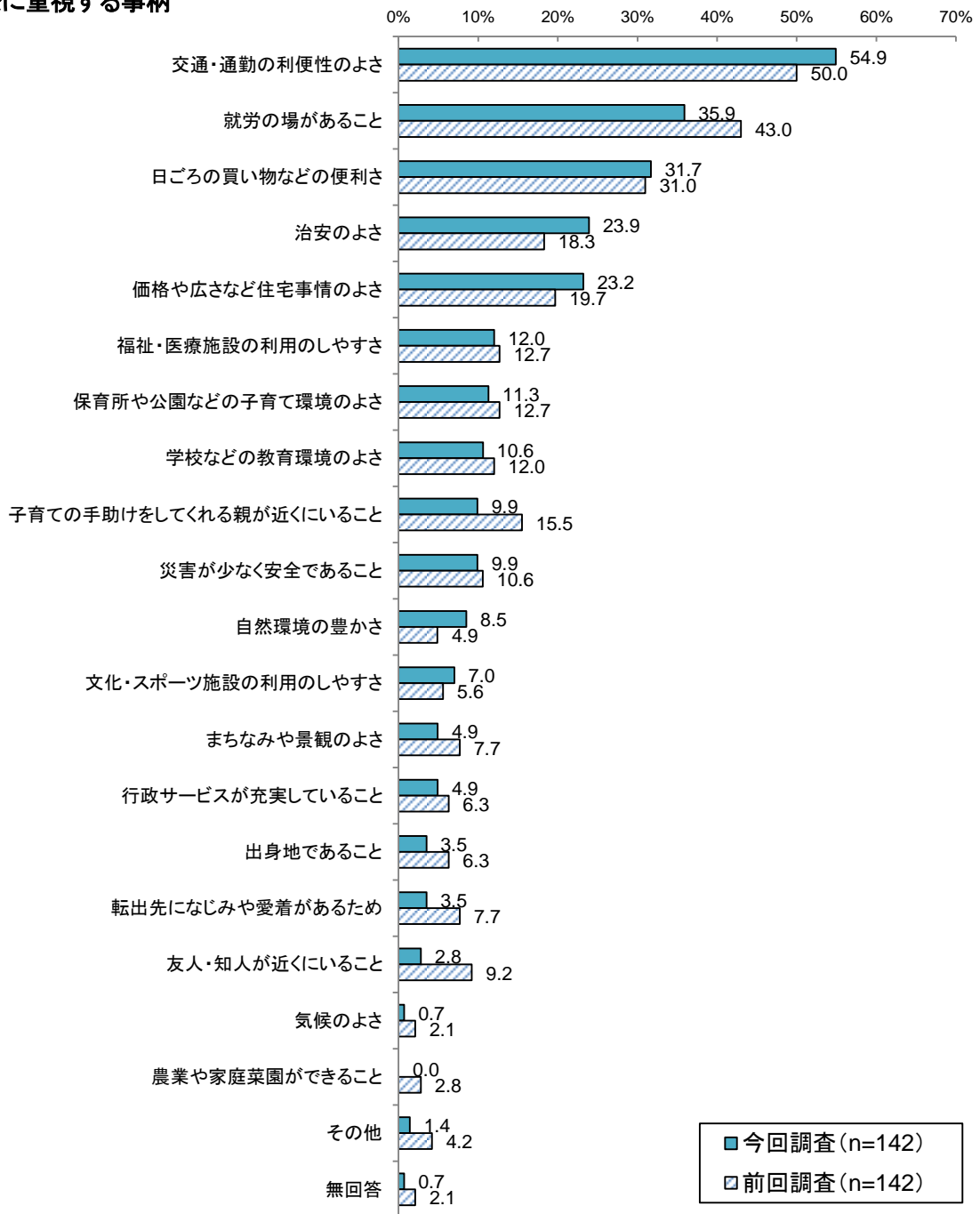
#### ■転出のきっかけ



#### [ 参考:市に住み続けるかどうか 設問対象＜全員＞ ]



## ■ 転出の際に重視する事柄



### 移住・定住についての総括

将来、吉野川市からの転出を考えている方は 19.2%となっており、前回は上回っています。また、そのきっかけとして、前回同様に「親からの独立」「転勤や転職」「結婚」が多く挙げられている中で、住宅環境の改善のために移住を考える方が特に増加しており、また、転出の際に最も重視する事柄として「交通・通勤の利便性のよさ」が挙げられるなど、前回よりも、さらに生活環境の向上を求める声が大きくなっているということがわかります。

今後は、市民の生活圏における環境・利便性の向上により一層努め、市外転出者の抑制を図り、社会動態における人口減少対策を講じる必要があります。



### 3 地域連携について

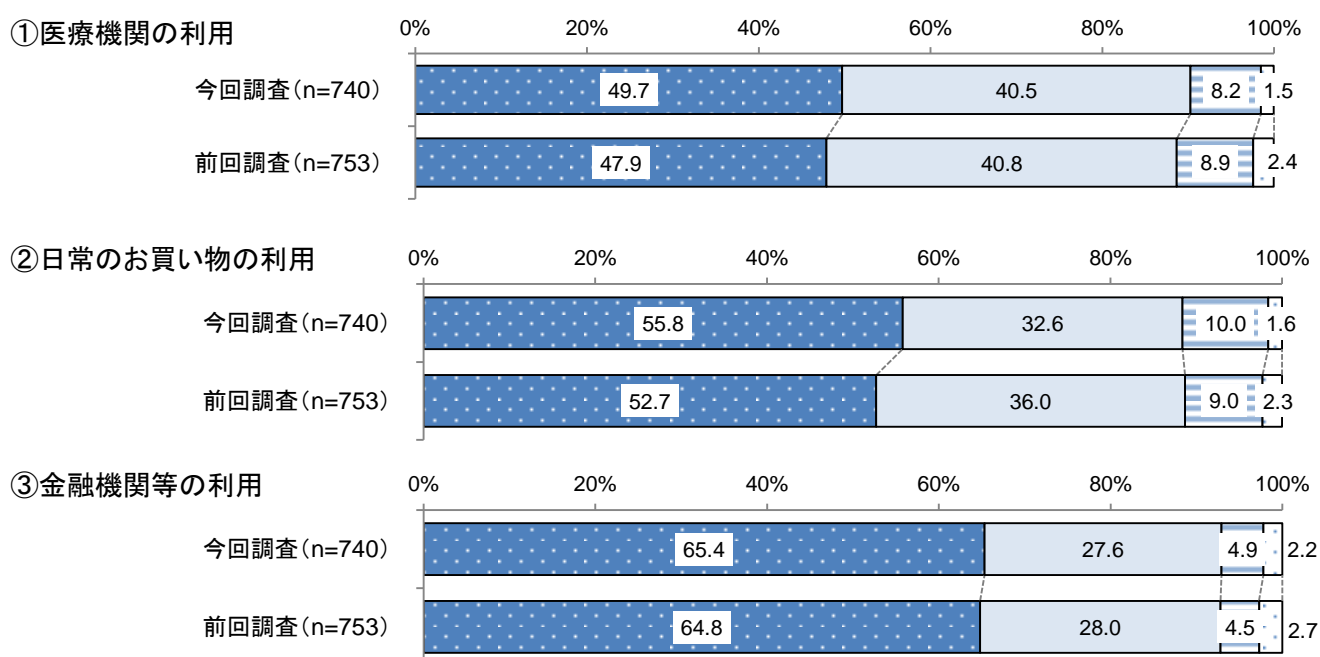
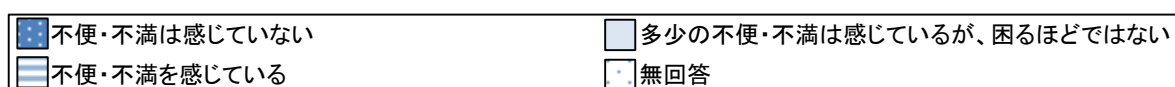
#### 【16～39 歳対象調査】

#### 設問対象＜全員＞

日常における不便・不満の要因をみると、「不便・不満は感じていない」が最も高い項目は、前回と同様に『金融機関等の利用』となっています。

一方、「多少の不便・不満は感じているが、困るほどではない」と「不便・不満を感じている」を合わせた【不便・不満を感じている】が最も高い項目は、前回と同様『医療機関の利用』となっています。

#### ■日常における不便・不満について



#### 地域連携についての総括

日常における不便・不満の要因について、【不便・不満を感じている】の割合は、『医療機関の利用』が48.7%、『日常のお買い物の利用』が42.6%となっており、前回調査からいずれも減少してはいるものの、依然として4～5割程度を占めています。

今後、市において、市民の生活満足度をより向上させ、さらなる定住促進を図るためには、市民の生活圏における不便・不満（特に医療機関・日常のお買い物の利用）の解消に引き続き努めていく必要があります。

## 4 進路や就職について

### 【16～39 歳対象調査】 【高校生対象調査】

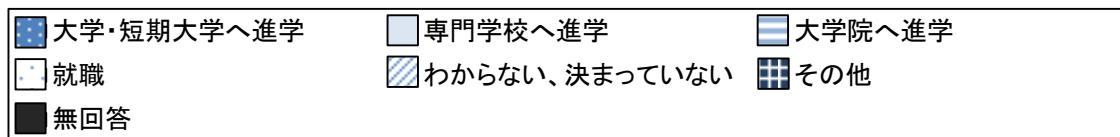
設問対象＜16～39 歳：高校生・専門学校生・大学生（短大含む）＞＜高校生：全員＞

卒業後の進路希望をみると、＜16～39 歳＞では「就職」、＜高校生＞では「大学・短期大学へ進学」がそれぞれ最も高く、ともに概ね前回と同様の結果となっています。

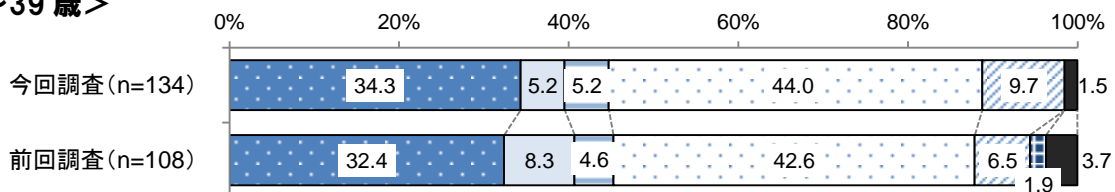
卒業後の居住予定地域をみると＜16～39 歳＞では「吉野川市外に転出する予定」が最も高く、前回と同様に「引き続き、吉野川市内に住む予定」を上回っています。

一方、＜高校生＞では「引き続き、吉野川市内に住む予定」は前回同様 27.8%となっています。

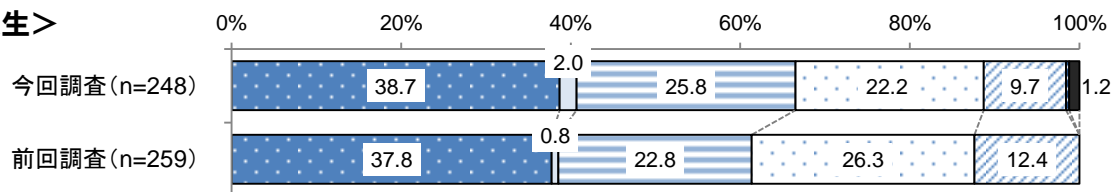
#### ■卒業後の進路希望



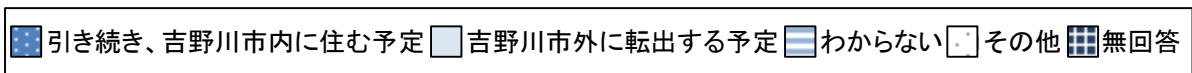
#### ＜16～39 歳＞



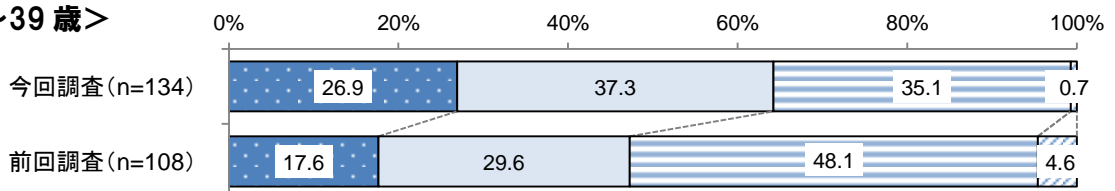
#### ＜高校生＞



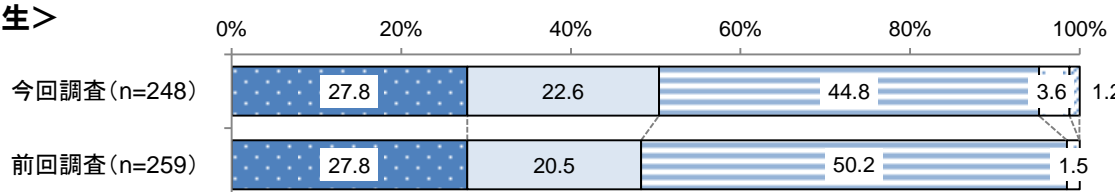
#### ■卒業後の居住予定地域



#### ＜16～39 歳＞



#### ＜高校生＞



【16～39 歳対象調査】

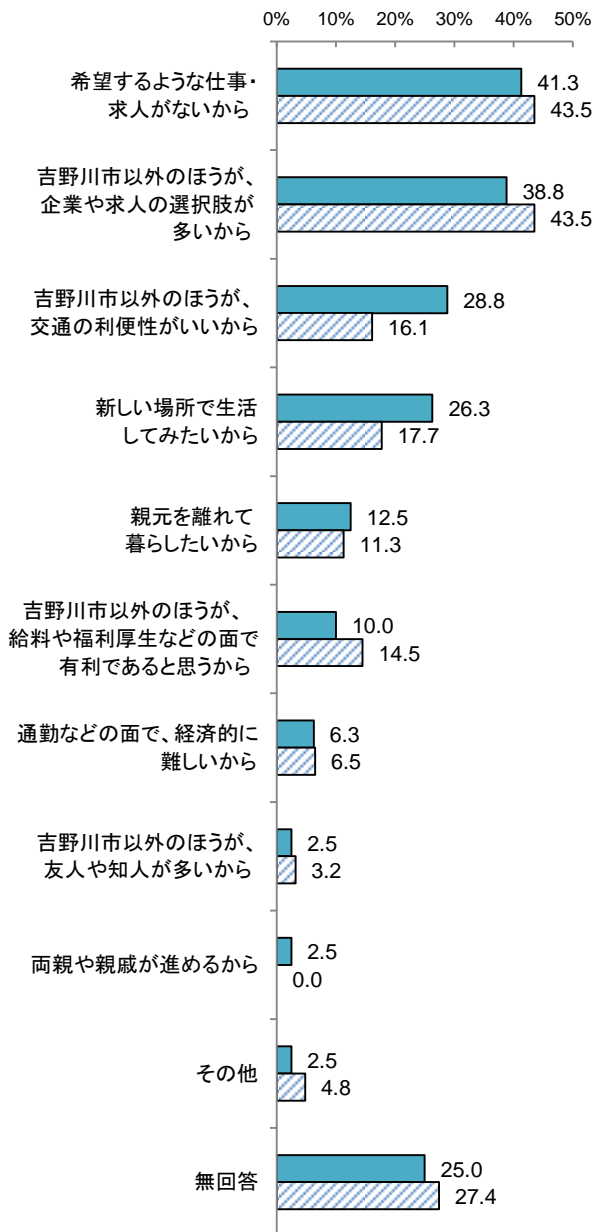
【高校生対象調査】

設問対象<16～39 歳・高校生ともに：卒業後、吉野川市外に転出する予定の方>

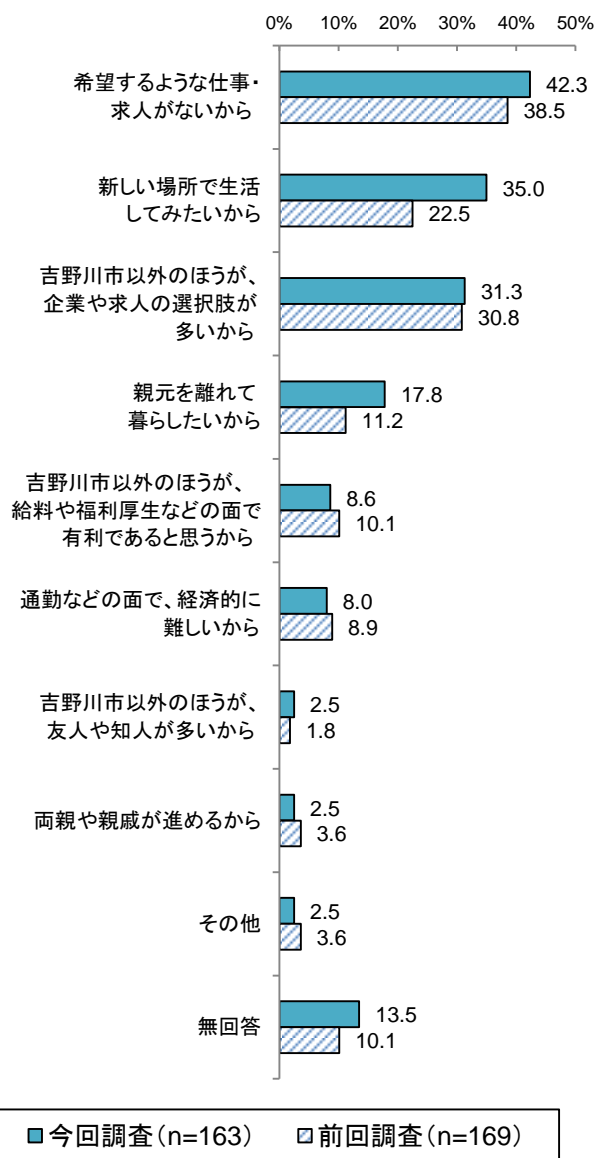
吉野川市以外で就職または居住したい理由をみると、<16～39 歳>、<高校生>ともに、「希望するような仕事・求人がないから」が最も多くなっており、前回調査と概ね同様の結果となっています。

■吉野川市以外で就職または居住したい理由

<16～39 歳>



<高校生>



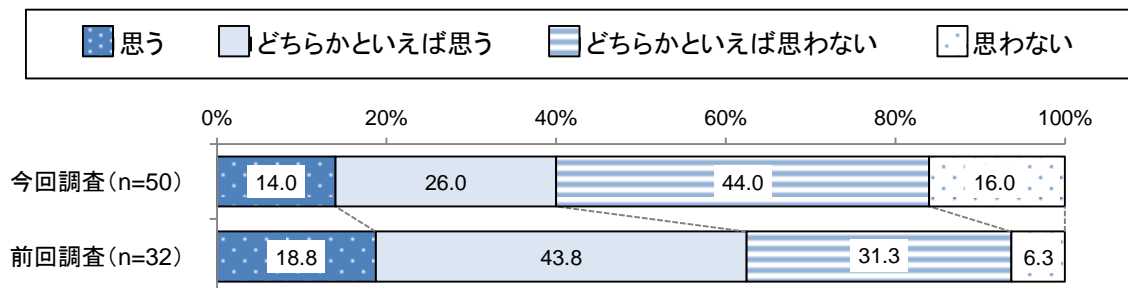
【16～39 歳対象調査】 【高校生対象調査】

設問対象<16～39 歳・高校生ともに：卒業後、吉野川市外に転出する予定の方>

将来、吉野川市に戻ってきたいかをみると、<16～39 歳>では「どちらかといえば思わない」が最も高く、前回よりも増加しています。<高校生>では「わからない」が最も高く、前回よりも減少しているものの、決めかねている方が4割程度を占めています。

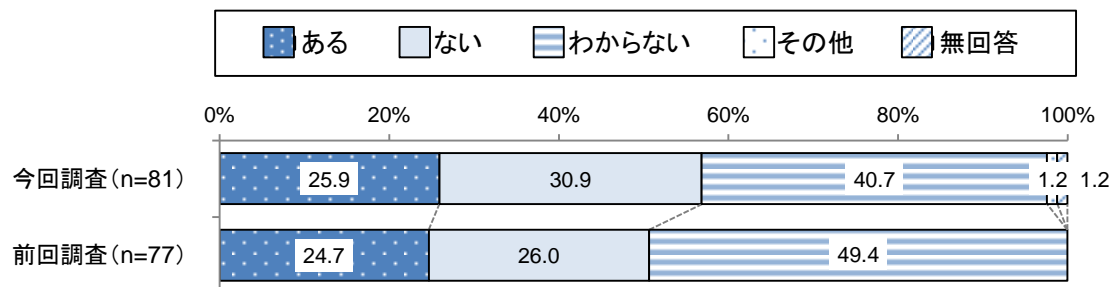
■将来、吉野川市に戻ってきたいか

<16～39 歳>



■県外に進学しても、就職の際には県内に戻ってきたい希望があるか

<高校生>



進学や就職についての総括

卒業後の居住予定地域について、<16～39 歳>では「市外」が「市内」を上回っていますが、<高校生>では「市内」が「市外」を上回っています。

また、吉野川市以外で就職または居住したい理由としては、<16～39 歳>、<高校生>ともに、「希望するような仕事・求人がないから」が最も多くなっており、前回と同様の結果となっています。

将来的に、吉野川市へ戻ってくるかについては、<16～39 歳>、<高校生>ともに戻りつものない方が前回よりも増加しています。

今後、市において、若年層のUターンを増加させるためには、転出の最たる理由である就職に関する問題の解決に向け、企業の選択肢を増やすなど、雇用の創出に努めるとともに、住み続けなくなる・帰ってきたくなくなるまちづくりに取り組んでいく必要があります。

## 5 吉野川市に対する気持ちについて

【16～39 歳対象調査】

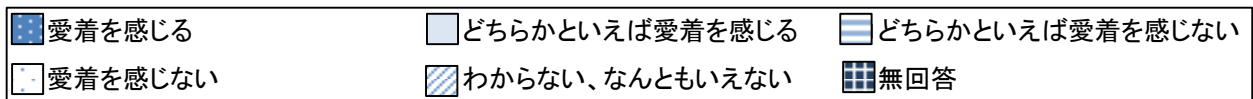
【高校生対象調査】

### 設問対象＜全員＞

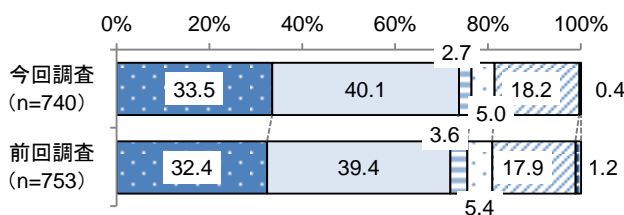
吉野川市への愛着についてみると、＜16～39 歳＞では「愛着を感じる」と「どちらかといえば愛着を感じる」を合わせた【愛着を感じる】が73.6%、「愛着を感じない」と「どちらかといえば愛着を感じない」を合わせた【愛着を感じない】が7.7%となっています。＜高校生＞では、【愛着を感じる】が65.8%、【愛着を感じない】が13.7%となっています。

また、吉野川市へ住み続けたいかをみると、「住み続けたい」が28.6%、「住み続けたくない」が15.7%となっており、前回調査と同様に「住み続けたい」が「住み続けたくない」を上回っています。

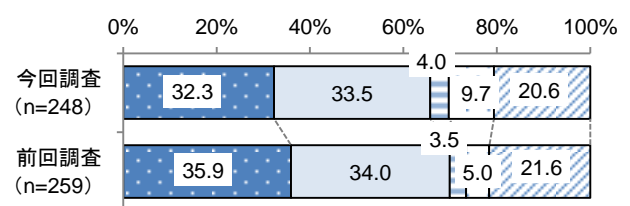
### ■市への愛着の有無



#### ＜16～39 歳＞

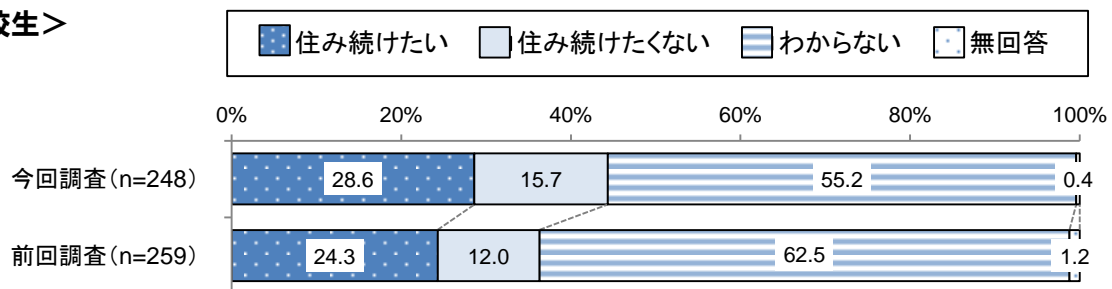


#### ＜高校生＞



### ■市に住み続けたいか否か

#### ＜高校生＞



### 吉野川市に対する気持ちについての総括

吉野川市への愛着度については、＜16～39 歳＞、＜高校生＞ともに、愛着を感じている人の割合が前回同様高くなっていますが、＜高校生＞では「愛着を感じない」が増加しています。

また、市に住み続けたいかについては、「住み続けたい」が28.6%と前回よりも増加しているものの、「わからない」も依然として高く、55.2%と5割を超えています。

今後、市において、若年層（特に高校生）の定住促進を図るためには、雇用の創出・確保等に合わせ、ふるさと教育の推進や伝統文化の継承等、郷土愛を育むまちづくりをさらに継続して進める必要があります。

## 6 仕事に対する気持ちについて

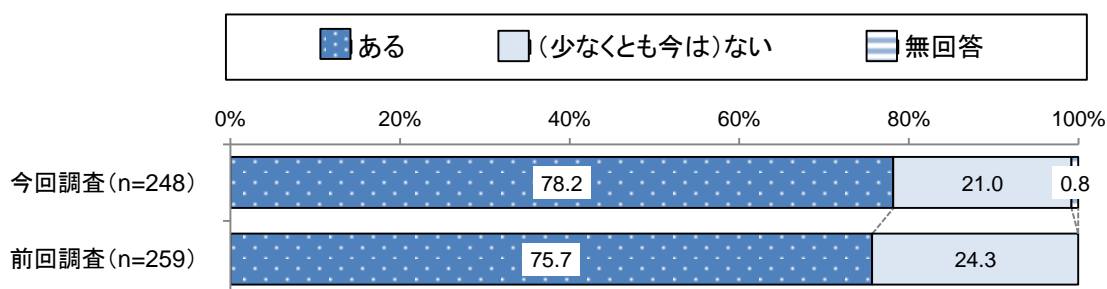
### 【高校生対象調査】

#### 設問対象＜全員、将来就きたい職業がある方＞

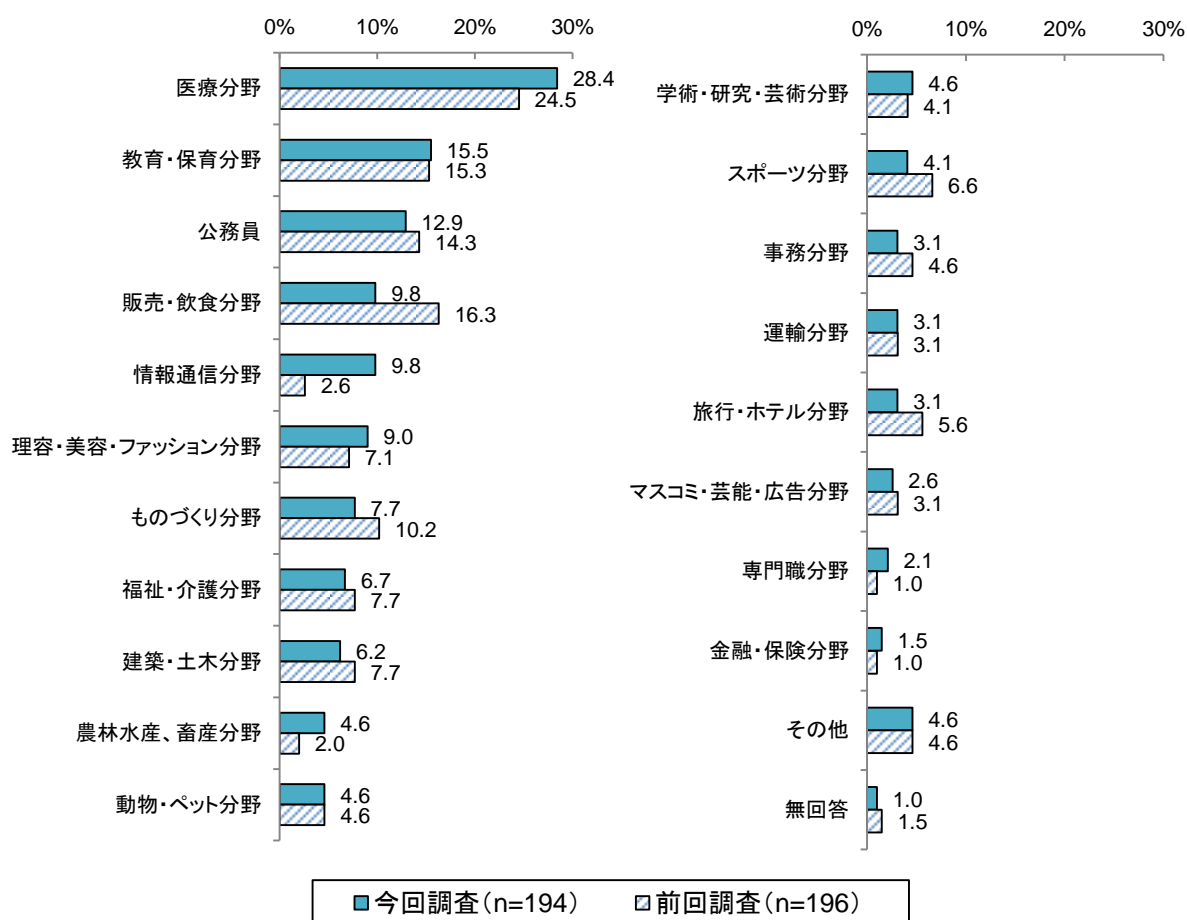
将来就きたい職業の有無についてみると、「ある」が78.2%、「(少なくとも今は) ない」が21.0%となっており、就きたい職業が「ある」割合が前回よりも増加しています。

就きたい職業の内容についてみると、前回と同様に「医療分野」が28.4%と最も多くなっています。

#### ■就きたい職業の有無＜全員＞



#### ■就きたい職業の有無＜就きたい職業がある方＞

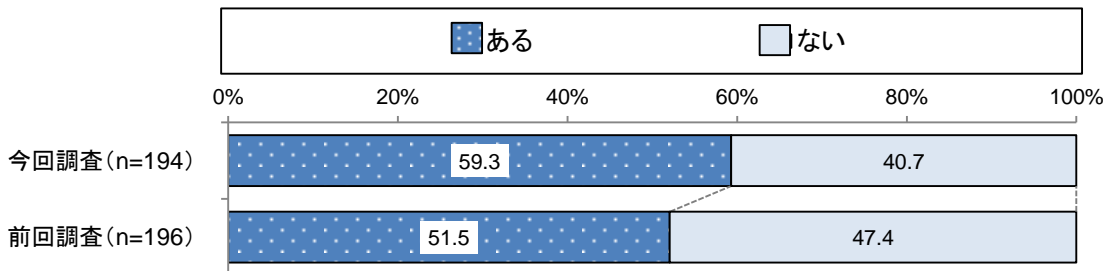


## 【高校生対象調査】

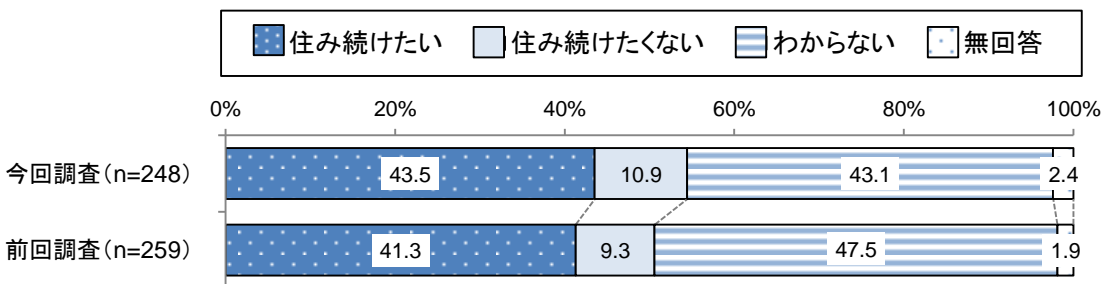
### 設問対象＜将来就きたい職業がある方、全員＞

就きたい職業が通勤可能圏内にあるかをみると、「ある」が59.3%と前回の51.5%を上回っています。また、通勤可能な範囲に希望する仕事があれば、吉野川市に住み続けたいかをみると、「住み続けたい」が43.5%となっており、前回よりも増加しています。

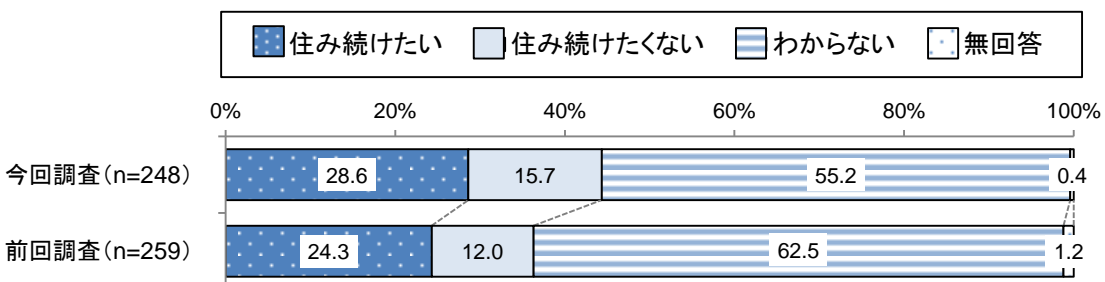
### ■就きたい職業は自宅から通勤可能な範囲にあるか＜将来就きたい職業がある方＞



### ■通勤可能な範囲に希望する仕事があれば、市に住み続けたいか＜全員＞



### ■市に住み続けたいか＜全員 ※仕事のことは問わず、住み続けたいかを聞いた設問＞



## 仕事に対する気持ちについての総括

将来、就きたい職業の有無についてみると「ある」が78.2%と前回よりも増加しており、就きたい職業としては「医療分野」を希望する学生が最も多くなっています。

通勤可能な範囲に希望する仕事があれば、市に住み続けたいかについては、「住み続けたい」が43.5%と前回よりも増加しているものの、「わからない」も43.1%を占め、決めかねているという方も同程度いるということが出ています。

今後、市において、＜高校生＞の定住促進を図るためには、通勤範囲内に魅力的な職業があるなどの雇用の創出に加え、愛着のある、住みやすいまちづくりを進める必要があります。

---

---

吉野川市  
第2期総合戦略策定のためのアンケート調査結果報告書  
＜概要版＞

発行年月：令和元年8月

発行：吉野川市

〒776-8611 徳島県吉野川市鴨島町鴨島 115 番地 1

TEL：0883-22-2221 FAX：0883-22-2244

---

---